

まほろば

くるしお

Vol.3

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



佐賀北部活性化推進協議会楮部会

中嶋 久美子 部長
「楮」とは、和紙の原料となるクワ科の落葉低木のこと。佐賀地域では約60年前まで楮栽培が盛んで、県下でも有名な産地として有名だったが、和紙の衰退とともに同地域の楮栽培は途絶え、区長たちが、「若山楮復活プロジェクト」を立ち上げ、今では文化財の修復などにも使われています。佐賀橋川地区にある和紙携わることから活動に聞かれました。

中嶋さんが黒潮町で楮に関わるようになったきっかけは？

私は東京都出身。大学で絵を専攻して紙と触れ合う機会が多かったので「紙を漉いてみたい」と思ったのと、ずっと田舎暮らしに憧れていたので土佐市で紙漉きの修行をして、それだけでは生活できなかつたので夏に天日塩の仕事があつた黒潮町に来たのよ。住んでみて野生の楮が山にたくさん自生していることに気付いて、紙漉きにもいい環境だと思った。黒潮町は海がきれいだし山もある。人が人懐っこいのが魅力。



蒸し剥ぎを指導する中嶋さん

若山楮復活プロジェクトは約10年前に始まつて、私はその時アドバイザーだったんだけど、いつの間にか楮部会の部長になつたね(笑)

昔、佐賀地域では冬に農業などができない時期に、若山楮の蒸し剥ぎまでをして原料として出荷し、収入の1つとしていたみたいやけど、今は「へぐり」までをここでしよつて、このへぐりがとても重要な作業。このとき小さな汚れなども除去することやその後のさらし作業で漂白剤などを

若山楮が良質な理由は？

1つひとつ丁寧な作業が認められたんじゃないかと思う。



紙漉きを行う

今後の課題は？

今後も続けて町の産業にすること。あとは跡継ぎを育てたいと思う。今へぐり作業をできる人が高齢化しているし減ってきているのよ。学校の取組で子どもたちに体験してもらつたりして知名度も上がつてきているけど、これが好きでやりたいと思う人にチャレンジしてもらいたいと思うね。

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookに掲載します。裏表紙のQRコードからご確認ください。

佐賀中ぼうさい大賞を受賞

兵庫県などが主催する「ぼうさい甲子園(1・17防災未来賞)」で佐賀中学校が「ぼうさい大賞」を受賞し、1月12日(日)、兵庫県公館で行われた表彰式と発表会に同中学校の防災委員6名が参加しました。

同賞は、阪神・淡路大震災などの自然災害の経験と教訓を未来に継承していくため、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組む子どもや学生を顕彰するものです。

同中学校では、佐賀地域の方言で結びつきが強いことを意味する「かかりがましい防災」を合言葉に、地域の高齢者宅を訪問し避難訓練への参加を呼びかけたり、南海トラフ地震発生の可能性の高まりについて気象庁が発表する「臨時情報」について、わかりやすくまとめたビデオなどを作製した取組などが評価されました。



佐賀中防災委員

2年生の中川伊吹さんは、「これからも犠牲者ゼロの町をめざして活動していきたい」と話しました。

福祉避難所開設・運営訓練

1月11日(土)、あつたかふれあいセンターにしきの広場で「福祉避難所開設・運営訓練」が行われ、66名が参加しました。

同訓練は、南海トラフ地震発生時に最大約1万人の避難者が出る想定される黒潮町において、高齢者や障がい者、妊産婦、乳幼児、病者などの要配慮者向けの避難所として「福祉避難所」の役割が期待され、災害発生前から地域や関係機関との協力関係を構築し、訓練を通じ地域住民の防災力の向上と災害時の被災者や要配慮者の支援に向けた体制づくりをめざし実施されました。

訓練は、トランシーバーなどを使った情報通信訓練や指定避難所に避難した要配慮者を把握し同センターへの移送、受け入れなど関係機関が連携し行われました。



受付訓練の様子

参加した大方高校の生徒は、「このような訓練に参加させてもらい、いろいろな人の生の声が聞けて良かった」と話しました。